

こんにちは。
わっキーです。

今回は、
大学受験をしてる受験生の方向けに、
僕の自己紹介をしていきたいと思います。

よろしくお願いします。

僕は現在、
慶應大学の商学部に通っています。

そして、このメルマガで僕が最も伝えたいことは、
「偏差値40の人間でも3か月で生まれ変わり合格することは可能である」

ということ。

そんなバカなと思うかもしれませんが。

ですが、
これは確かな根拠を持って言ってますし、
正直改めて言うには当たり前すぎるレベルで
僕の中では当たり前のことです。

それくらい僕は慶應大学は合格できる世界だと思っているし、
同様に他の大学にも合格できると確信している。

では、なぜそこまで確信できるのか？

ちゃんと訳があるのです。

それを説明するのは、
僕がどうやって慶應に受かったか？

を話さなくてははいけません。

話は中学生の時に遡ります。

僕の家は、
かなりの貧乏な部類の家庭だった。

親に何かを頼んで、
買ってもらったことはほとんどない。

友人が映画館に行く中、
僕は一人ぼっちで漫画を読むしかない。

そんな寂しい子供だった。

子供というのは、残酷だ。

平気で傷口に直接攻撃してくる。

「お前の家どんだけ貧乏なんだよ」

なんてことを言われて、
僕は常に他人と喧嘩していた。

そんなこともあり、
中学校は非常に楽しくない場所だった。

特に僕の中学は、
ヤンキーだらけの中学校で、
授業中には、サッカーボールが後ろから飛んでくるような
そりゃーもうびっくりレベルの学校だった。

そんなわけで、
僕はこの学校が大嫌いだった。

で、僕は学校に行かなくなる。

いわゆる不登校だ。

そして、僕の成績は、最下層に落ちていく。

僕は中学3年の5月の中間テストで
中学校、それもヤンキーばかりの中学で、
最下位というとんでもない成績をたたき出した。

なんとなく、
高校にはいけるものだと思っていた。

しかし、
この成績でしかも不登校ならどこにも行けないと担任に伝えられた。

母はその時のことをこう話している。

「あの時は本当に息子は終わったと思った。
と同時に今まで逃げてきた息子の問題に取り決めようと思った」

僕の家庭は、
超貧乏家庭で、夕飯がバナナ1房のこともあるくらい家庭だったが、
教育には、力を入れてくれた。

母は、このままでは、息子は終わると思い、
僕をどうにか再起させてくれるような先生を探した。

そして、
僕は人生を大きく変える出会いを果たすことになる。

母は、僕を変えてくれる先生を見つけ、
僕をその先生がいる塾に連れて行った。

不登校の僕にとっては、
正直外出することすら、きついことで、
かなり億劫だった。

が、母の執念で、
僕は連れて行かれ、
先生に会うことになる。

そして先生と会うのだが、
初めて会った時の第一印象は、

「超怖い」

もうそれだけだった。

マジでヤクザみたいな風貌である。

なんで全身クロなんだよ。

と僕は疑問に思ったが、

不登校で人間としての自信を喪失していた僕は、
そんなことを言えるわけもなく、
ただただ黙っていた。

で、机越しに対面で僕は先生と座ることになる。

で、
初対面で先生に言われた言葉で今でも忘れないのは、

「お前目が死んでるよ」

とのことだった。

僕の目は確かに死んでいた。

今の僕からしても確かにそうだ。

だが、赤の他人にいきなりそれを言われ、
僕は心底むかついた。

で、次に先生は母にこういった。

「うちに来ればなんとかなるでしょう」

????

なんだと。。。

どんだけこいつ上から目線なんだ。

だが、、、俺高校に行けるのか？
通信高校以外進路がないと言われた俺が。。。

僕の感情はそんな感じで渦巻いていた。

母は

「ぜひお願いします」

というわけで、僕の話など聞く気も一切なく、
僕はこの塾に通うことになった。

このヤクザのような上から目線の先生から習うことになる。
【ヤクザ教室】とでも言えるだろう。

僕はそこでこれまでないレベルのスパルタ指導を受けた。

正直今思えば、
決して、効率的な指導ではなかった。

だが、僕は根性が死んでいて、
人間として終わりの状態に近かった。

中学3年生にして日光を浴びると頭痛になってしまう状態だ。
確かに終わりに近い。

毎日毎日スパルタ。

行きたくもねえ塾に行き、
だりーなと思いつながら勉強した。

その結果高校に合格することができた。

今でも先生には本当に感謝している。

僕はこのヤクザ先生に合わなければ、
今はどのような仕事をしているかわからない。

高校に入った僕は、
周りとの価値観の違いに驚く。

教育には無限にお金を使う。

やりたいことがあれば、お金が出てくる。

お小遣いが欲しければ、親に頼めばもらえる。

すべてが衝撃だった。

そんなにお前らの家は金があるのか。。。
この気持ちは、僕のコンプレックスを加速させた。

とにかくお金がない僕は、
アルバイトをすることになる。

毎日のようにバイトをしていた。
僕はパン工場で働いた。

毎日毎日パンとカステラを見る日々だった。
8時間目の前には、カステラしか出てこない。

永遠とベルトコンベアーの上を流れているのだ。

地獄のような日々だったが、
お金がなかったので仕方がなかった。

僕は将来お金を稼ぐために、
難関大学に行くことを決意する。

と同時に難関大学の女子は可愛いらしい。

と超適当な情報を聞いて、
それも僕の難関大学に対するモチベーションになった。

だが僕は本末転倒な選択をしてしまう。

目先の利益を求めて僕はアルバイトをしまくってしまう。

その結果全然勉強しなかったために、
高校3年生の現役時代は、
早慶をなんとなく受けて、
受けた大学すべてに落ちるという
散々な結果をたたき出した。

あの時の恐怖は今でも忘れることはない。

え、、、俺浪人なの？

浪人って。。。。ダメなやつがなるものじゃないの。。。。

という恐怖感に僕は圧倒されそうになっていた。

そして、僕は浪人することになる。

再三になるが、僕の家は、非常に貧乏な家庭だ。

なので、浪人して予備校に通うという選択肢はなかった。

僕は自宅浪人の道を進むことになる。

Z会も使わないし、東進にもいかない。

正真正銘の自宅浪人だ。

僕はすべての大学に落ちて、

このままではやばいと思い、
まずは本屋に行って、勉強法を探した。

「俺の性格的に真面目に勉強するとか無理だ。」
「どうにか楽に受かる方法はないだろうか。」

そう思い、
受験勉強をするのではなくて、
本屋に行って立ち読みで勉強法を学びまくる。

ほとんどの本がクソだったために、
かなりの時間を消費した。

そして僕は諦めて家に帰り、
少しずつ勉強を始める。

だが、勉強している時に、
あまりにも自分の頭が悪すぎて、
勉強が全然進まない。

これはあかんと思って、
再度本屋に向かう。

だが、ろくな本はない。
どの方法があるかがさっぱりわからない。
諦めて僕は勉強を開始した。

僕は勉強をしている時に、
どのように勉強をしたら効率的に勉強ができるか、
死ぬほど考えながら、勉強をした。

そこでまた本屋に行って、
勉強法の本を読んでいたら、
なんとなくわかった気がしたので、
家に帰ってやってみた。

そうしたら繋がったのだ。

どうやって勉強すれば頭が良くなるか。
僕は兼ねてから進学校の連中は頭が良すぎて、
才能が違うと思っていた。

だが、どうしたらそのような脳みそになれるか僕はぼんやりわかったのだ。

それをベースに僕は3月から5月まで勉強するようになる。

自分の体感的にはかつてないほどの学力の上昇を感じていた。

そんな時に模試を受けてみた。

そうしたらあらゆる科目の成績が急上昇した。

僕は5月に受けた河合塾全国統一模試で70以上の成績をたたき出し、英語に至っては、偏差値が82だった。

僕は慶應大学商学部の模試受験者の中で、全国8番目だった。

信じられなかった。

たった3ヶ月くらいしか経っていない。

しかしこれほどまでに成績が上がるものか。

勉強法の威力に心底驚いた。

脳の構造的に学びやすい方法で学ぶところも変わるものか。

僕はあまりにも成績が上昇してしまったために、

勉強をしなくなる。

「慶應受かるからいいだろー」
こんなノリである。

ぶっちぎりでA判定だ。

落ちるわけがない。

僕は調子にノリまくって、

夏はほとんど勉強しなかった。

僕は母方の祖父母の家で自宅浪人していたのだが、
最初はばあちゃんたちに毎日感謝して、
勉強してたが、成績が上がったためにそれもなくなり、
ブックオフで漫画を読み、
茨城のど田舎で自転車をこいでサイクリングを楽しむ生活になった。

おじさんがいない時は、
パソコンを借りて、Youtubeをひたすら見る。
眠ければ寝る。

~~エロい動画を見る。~~
~~で、寝る。~~

で、気が向いたら、過去問を見る。

いや正確には見ていない。眺めていた。

視線を転がしてただけで全く記憶に入れてなかった。

「勉強しろよ」と当時の自分には言いたいが、
それだけしなくても知識が抜けることはなくて、
テストを受けても普通にできるレベルだった。

特に英語はもう絶対に落ちないだろというレベルまで
長文読解の能力は上昇仕切っていて、
日本の大学で英文を読む時に困る大学は存在しなくなっていた。

日本で1番難しい和訳は、京都大学だが、
それさえ簡単だと思えるレベルだった。

僕は、調子に乗りまくり、
浪人生で大手予備校に通っていて、
成績の悪い奴にアドバイスをする。

という受験生らしからぬことをしていた。

まだ受かってもないのに、
他人の指導をしていたのだ。

友達に教えれば、
教えるほど、成績が上がったので、
楽しくて仕方がなかった。

教えるだけで、成績が上昇して、
おまけにお礼で飯をおごってもらえる。

自分は神だなと思った。

僕は一応、
東大、一橋志望だったのだが、
5月に慶應でA判定が出て以来、
猛烈にやる気が出なくて、
国公立の勉強を一切やらなくなっていた。

そんな時、11月に一橋模試を受けて、
対策をほとんどしてないために、全然できなかった。

なるほど、勉強法で、私立は無敵になったけど、
対策はしないとさすがに無理なのだなと思った。

勉強法を用いて、
国公立対策をやるという選択肢は自宅浪人して、
精神が崩壊していた当時の僕にはなくて、

慶應受かればいいだろとひたすらに思っていた。

11月に模試を受けて、
できなかったので、多少ショックを受けたが、
結局3日くらいショック療法的にやる気が出たが、
またやる気を失い、
Youtubeを見る日々に戻った。

本当にクソな日々だ。

そんなこんなしたら、
センター試験になった。

僕は茨城の住所で出願したために、
筑波大学で受験した。

初日は、バスに乗り間違えて、
ちょっと遅刻するという超ヘマをやらかした。

正直センターに対しては、
あまりにやる気が出なくて、
その日のことはほとんど覚えてないレベルで覚えてない。

覚えているのは、
数学があまりできなかったこと。

遅刻したこと。

朝ごはんがホテルの食事でテンション上がったこと。
くらいだった。

貧乏人の僕にとっては、
18歳でホテルに泊まるというのは
非常にワクワクした。

本当にそれくらいしか覚えてない。

とりあえず大失敗したことは覚えている。

というのは結局国立に対してははっきり言ってモチベーションはなかったと言える。

勉強法を確立していたのにセンターをやらなかったのだ。

なので、私立に切り替えた。

正確に言うとしょっぱなから私立モードだったが、

なんとなく「国立だぜ俺は、私立とは違うぜ」みたいなオーラを放っていたが、

それもやめて、私立に受ければもうどうでもいいよみたいな半ばヤケのスタイルになっていた。

それだけやばい状況だったが、

やる気が出なかった。

でないもんは仕方ないと思い、

2月に入ってるのにYoutubeを見ていた。

2月5日は、

明治大学の全学部統一入試だった。

僕は生田という川崎の田舎で受けた。

正直ほとんど覚えてなくて、

綺麗なトイレを見つけて、テンションが上がったことくらいしか覚えてない。

一橋と慶應くらいしか終盤では考えていなかったために、
古典を僕は勉強しなかった。

マークシートだったために、
古典はさっぱりわからなかったが、なんとなく潰した。

英語はできたし、
現代文もできたし、
日本史もできたし、
数学もできた。

ただ古典だけができなかった。
いつだったか覚えてないが、

中央大学も受けた。
この日のこともほとんど覚えてない。
この日は英語と現代文という得意科目しかできなかった。

だが、今振り返ると、
僕は元々英語と現代文ともに苦手科目だった。

勉強をいくらしても特に長文読解は出来る気がしなかったし、何を勉強
すれば伸びるのか
さっぱりわからなかった。

しかし勉強法を会得したことにより、
どのように勉強すれば伸びるかわかってしまった。

英語と現代文はもっとも伸びるのに時間がかかるというのが受験の相場だが、そんなものは全く関係なくて、むしろ超伸びやすい科目だと思っている。

そんなもんで、中央も英語と現代文はできたのだが、数学はあまりできなかった。

落ちた。そう確信した。

中央のことも明治のこともほとんど覚えてない。

ただなんとなくできたようなできないような。

そんな雰囲気だった。

次は明治の一般入試だ。

僕は5月に英語を異常レベルまでに上昇させて以降、他の科目を完全に放置させていた。

なので、日本史や数学は自信がなかった。

明治は自信があまりなくて、案の定落ちた。

やべーこのままだと2浪突入するよ。

と思うと同時に勉強しないでyoutubeを見ていた自分にブチ切れそうになった。

後は慶應だけだと思い、

過去問をやってみると、

英語がやはり出来て、

どう低めに見積もっても合格点を達成する点数をたたき出せた。

明治一般で大ダメージを受けたのに、

すぐに調子に乗り、

なんか受かった気になっていた。

そんな頃に明治の全学部統一の合格発表があり、

マークをノリで潰した試験だったが、

なんと受かっていた。

今思えばこの時が一番喜んだ。

慶應はなんとなく受かる気になっていて、

むしろ明治の方が危険だった。

案の定中央には落ちた。

とりあえず明治受かったたので、

2浪は免れて、

慶應に向けてのんびりしていた。

最後に詰め込むと無駄に焦ると、
2chに書いてあったので、
それをそのまま受け入れて、
残り4日くらいあったのにマジで何もやらなかった。

そんなこんなしたら、
慶應商学部受験の日だ。

最初は英語だ。
これはかつてないほどにできた。
ほぼ満点だと思う。

勉強法を信じてやってきて良かったと感じた。
次が日本史だ。
重箱の隅をつつかれて僕は即死した。
なんとなく埋めた。30点くらいだと思った。

最後は数学、
その年の問題をやらしてもらえればわかるが果てしなく意味不明である。

大爆死した。

そのために僕は慶應に行けないと思っていた。
いくら英語ができてあそこまで爆発したらダメだろうと。
なので、全く落ち着かなかった。

滑り止めの横浜国大の対策をぼんやりしていた。
そして国立の受験日は横国を受けたのだが、

全く集中できなかった。

なんとなく受けたのだ。
手持ち無沙汰で過ごしながら、

慶應商学部の合格発表日が来た。

僕は受かっていた。

僕の受験はそこで終わった。

中央大学全学部統一:不合格
明治大学全学部統一:合格
明治大学政治経済学部:不合格
明治大学経営学部:不合格
明治大学商学部:不合格
慶應大学商学部:合格

僕が入学した大学は慶應だった。

僕の受験物語はここで終わる。

これが、
僕が慶應に合格するまでの物語です。

読んでもらえればわかる通り、
僕は昔から成績が良かったわけではありません。

むしろ僕は、
学力に関しては最悪な部類でした。

中学の時は不登校だったし、学年ビリでもありました。
中学の頃受けた模試では、
国語、数学、理科、社会のすべてで0点を取り、全国最下位にもなりました。

でも、そんな僕でも、
慶應に受かることができたのです。

慶應というのは、
決して雲の上の存在ではないんです。

では、なぜそんな状態だった僕が、
慶應に受かることができたのか。

それは、
勉強法があったからだとは僕は確信しています。

もちろん、
勉強法だけで成績は上がりません。

ある程度勉強しないと、
成績は上がらないでしょう。

でも、正しい勉強法がなければ、
いくら勉強しても成績は上がらないのです。

僕は、
志望校に合格しようと必死に努力しているにもかかわらず、
勉強法を知らないというだけで無駄な苦勞を重ねてしまっている、
そんな受験生にこそ勉強法を知って欲しいと思っています。

これを読んでいる受験生には、
ぜひ勉強法を知り大学受験で良い結果を出し、
将来チートレベルで活躍する人材になっていただきたいです。

受験生へ。
詳しい情報は下記記事にまとめているので、見てくださいな。

http://wakki001.com/keio_daigakujuken

みんな早慶受かるといいね。(もちろん他の大学も)